# 宇部市文化振興まちづくり審議会　第１回会議概要

日　時：平成 27 年(2015 年)11 月 24 日（火）14:00～16:30
場　所：宇部市吉部ふれあいセンター　１階　多目的ホール
出席者：委員８人（欠席者２人）
事務局：片岡総合政策部長、唐沢総合政策部次長、小林文化・スポーツ振興課長補佐、松井文化振興係長、津室係員、関係課１人
その他：報道機関１人、傍聴者０人、

## １　議事

### （１）文化振興ビジョンの点検・検証について

事務局から、「平成 26 年度文化振興ビジョン個別事業の進行管理資料の総括」及び各事業の進捗率や事業の方向性をまとめた「事業一覧表」に基づいて説明が行われた後、質疑応答が行われた。

（委　員）　「煌くまち文化振興ビジョン個別事業進行管理資料」のＣ－８「子ども委員会支援事業」について尋ねたい。

目標指標「子ども委員会支援事業への年間参加児童数」について、事業の方向性は「縮小」となっているが、平成 21 年度（基準年度）の基準値「6,240 人」に対して、平成 26 年度の目標値「300 人」と記載がある。平成 26 年度目標値が基準年度より少ないことについて説明をお願いしたい。

（事務局）　お尋ねのＣ－８「子ども委員会支援事業」については、Ｃ－10「放課後子ども教室推進事業」に統合する予定となっており、このため、平成 26 年度の目標値は、平成 21 年度の基準年度より少なくなっている。

なお、Ｃ－10「放課後子ども教室推進事業」については、今後事業を拡充することとしている。

（２）アートによるまちづくりについて

事務局から、「宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「第 26 回 UBE ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ 2015」について説明が行われた後、意見交換が行われた。

（委　員）「第 26 回 UBE ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ 2015」の企画は、UBE ビエンナーレを身近に感じてほしいという意図が伺えた。まだまだ UBE ビエンナーレが市民に浸透していないと感じていたが、この度のような企画を積み重ねることで参加者も増えていくと思う。参加型企画で人の興味を募り、「やってみようか」「誘ってみようか」と思わせることが大切と思った。

（委　員）これまで行っていた個々のイベントを１つに繋いでいることがすばらしい。

昨年度と今年度、彫刻教育推進事業の一環で、UBE ビエンナーレの作品展に小学校の子どもたちを招待する事業があり、参加した子どもたちは大変感動していた。このような素地の積み重ねが大切と思う。

今年の５月ごろ、市内の全小学校で１つのハートの石を磨いて繋ごう、というラブストーンプロジェクトがあった。作家が学校に来て説明をしてくれたおかげで、作者の思いが直接聴け、子どもたちに大変良い影響を与えた。

参加型の事業は人を育てる過程で大変ありがたいものである。

子どもたちへの地道な活動が、市の大きな活動につながると感じている。

（委　員）人をつなぎ、文化を創造するときは、「ひと・もの・こと」が大変大事であり、宇部はすべて満たされているように感じている。それを、どのように仕掛けていくかが重要であり、その方法を考えていく必要がある。例えば、通学路で、人が創造したものに触れることができるようなまちづくりを期待している。できるだけ近くに彫刻が点在していることが理想だ。

（委　員）「第 26 回 UBE ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ 2015」総合パンフレットを見て、短期間によくこれだけのイベントを用意されたと思った。しかし、興味があるものや空いている時間しか参加できず、全イベントは参加できなかった。

各会場を巡るツアーバスがあり、大変良い取組だと感じた。

元々の野外彫刻設置の取組は、子どもたちの健全育成に起因しているが、最近、学芸員が学校に出向き授業を行ったり、彫刻清掃や、小学生が行う彫刻ガイドなどが取り組まれ、大変良い変化を感じている。

（委　員）　うべの里アートフェスタは良い企画だが、まだ周知されていないように感じられ、もったいない。

スタンプラリーなど楽しめる企画もたくさんある。若い人にどのように PR していくかが重要だろう。参加型の企画は、小中学生も参加しやすいといいのにと思う。

（委　員）「第 26 回 UBE ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ 2015」は新しい取組で良かった。

しかし、現場でイベントに携わる者としては、多くのイベントを行っているが、横の連携がなく、他のイベントは、どこで何を行っているのか分からないように感じた。

また、「第 26 回 UBE ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ 2015」の枠組に入ったことで大きなイベントの中で構成される個別のイベントについてはメディアへの周知活動が行えなかった。

UBE ビエンナーレが強調されており、他のイベントがクローズアップ出来ないように感じた。

また、アーティスト イン レジデンスは、今後非常に目玉になる事業だと感じる。

（委　員）　過去に受講した市民大学文化学部の講座で、学芸員から彫刻の解説を受け、初めてその素晴らしさを知った。

今回の UBE ビエンナーレの作品を鑑賞し、これまでの作品と大変毛色が変わったと感じた。これまでは抽象的な作品が多く親

しみが持てなかった。今回は、ほとんどの作品が分かりやすく、大変親しみが持てた。

また、宇部市中央町に開館した川崎美術館も大変感動した。知人など周囲にも宣伝をしているほどだ。

UBE ビエンナーレは、市民にしか知られていないと思っていたが、九州でも知られていた。

全体的に、みんなが一生懸命頑張っている姿をひしひしと感じた。

その一方で、渡辺翁記念会館のコンサートへの来場者が少なく、寂しく感じることがある。公演の内容が、市民のニーズと合っていないのではないかと思う。それにはどのように対処したらいいのかを考えていきたい。

文化会館やときわミュージアム等、一つの建物で複数の催しを同時開催していると、目的とした催しだけでなく、他の魅力ある催しを発見することもでき、非常に良い。

食について、文化会館の周りは店舗が少なく貧弱に感じる。定休日であったり、営業している店舗では満席だったりと、右往左往したことがある。食についても、もう少し考えてほしい。

（会　長）「第 26 回 UBE ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ 2015」を行うことで、急に来場者が激増するものではないと思うが、だんだんと効果は表れてくるように感じる。食の要素を加えることで来場者が増加しており、良い取組だと思っている。ただ、盛り込みすぎているところがあり、日程が重なったイベントに行けないことは、今後の課題だと思う。

彫刻作品について、見てわかりやすい作品が増えていることは確かに感じるし、良い傾向だと思う。彫刻の専門教育を受けていない人も「おもしろい」とか「きれいだ」と感じる作品が望ましいように思う。学生を連れて彫刻の前で授業を行ったが、非常に良い機会だった。

事務局に尋ねるが、アーティスト イン レジデンスは、彫刻家に限ったことではないということで良いか。

（事務局）　そのとおりである。幅広く多彩なアーティストをターゲットとしており、宇部に来て交流を広げていただきたいと考えている。

（会　長）　今、小中学校では図工が非常に少なくなった。しかし宇部の子どもたちには、総合学習の時間を用いて、アートに親しんでいただくきっかけを与えてもらっている。

アートによるまちづくりは、最終的には経済や産業も視野に入らないといけない。人口減少が見込まれる中で、平成 25 年頃から社会的包摂ということが叫ばれており、子どもについては今後その方針に沿った教育過程が作られていくだろう。大人・老人については社会的な取組の中での絆づくりが必要であろう。例えば芸術においては、ワークショップや参加型のものが大変有効な役割を果たすだろう。そのためには、彫刻に収斂することも一つだが、それ以外のアートも広げていかなければならないように感じる。

その取組として、今回の「第 26 回 UBE ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ 2015」は非常に良い試みだったが、持続することが大事である。

九州や渋谷で彫刻の模型展を行ったことは非常に画期的なことだと思う。

アーティスト イン レジデンスは、アートに対する垣根や敷居を低くすることで、人々になじんでいく役目があるのだと思っている。

**（３）その他**

（会　長）　事務局から説明をお願いしたい。

（事務局）　現在の「煌くまち文化振興ビジョン」は平成 24 年度から平成 28 年度までの計画であり、来年度は改定作業がある。その際には、「宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の内容も盛り込んだ、新たな形のものとしていただきたい。

議事終了後、うべの里アートフェスタ吉部会場を見学し、解散した。

以上